

論 文 内 容 要 旨

Comparison of CD34 Expression in Fibrous Reactive Hyperplasia  
and Healthy Oral Mucosa

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

口腔科学講座 長崎真子

(指 導： 槻木恵一 教授)

## 論文内容要旨

〔目的〕口腔は、刺激を受ける機会が多く、外傷性線維腫や刺激性線維腫を含む線維過形成性病変が高頻度で生じる。しかし、この線維過形成による病変の性状についての研究は非常に少ない。一方、口腔の線維増殖性病変で最も報告例の多い孤立性線維性腫瘍は、CD34 と Bcl-2 を高頻度に発現し、これらのマーカーは、孤立性線維性腫瘍の腫瘍マーカーとして定着している。

そこで本研究では、これらのマーカーを用いて、線維過形成性病変の性状を検討することを目的とした。

〔方法〕対象症例は、線維過形成性病変 19 例である。遺伝子発現の解析には、定量 PCR 法および *in situ hybridization* (ISH) を行った。CD34 の免疫組織化学的の解析には酵素抗体法を実行した。

〔結果および考察〕線維過形成性病変に対する PCR における CD34 mRNA 発現は全例認められた。CD34 mRNA レベルと CD34 陽性細胞率の間には、相関が認められた。線維過形成性病変の CD34 の発現は、免疫染色および ISH レベルで線維芽細胞に認められた。CD34 の発現は、粘膜固有層には認めないが、粘膜下組織の線維芽細胞に陽性像が観察された。線維過形成性病変の CD34 蛋白のレベルは、CD34 mRNA 発現レベルと相関し、線維過形成性病変の線維芽細胞は、CD34 mRNA を発現する事が証明された。さらに、線維過形成性病変は、粘膜下組織の CD34 陽性線維芽細胞の増殖により発生することが示唆された。